大飯原発差止訴訟［京都地裁］の勝利をめざして

# 脱原発、京都の課題を考える会

## 原発事故の避難計画、京都市の電力調達

京都地裁の大飯原発差止訴訟は、主張の段階が終了に近づき、証人を立てる段階が近づいています。原発依存への動きが強まる中、勝訴への展望を切り開いていくため、原告団では、今、身近な地方自治との関連で脱原発の動きを加速していきたいと考えています。そのための第一歩の企画として皆さまのご参加をお待ちしています。

*Program*

**「原子力災害に対する住民防護と地方自治体**
**── 変ぼうする避難退域時検査 ── 」**

◆**市川章人**（京都脱原発原告団 世話人、京都自治体問題研究所・原子力災害研究会）

**「京都市の電力調達から原発を排除するには」**

◆**吉田明生**（京都脱原発原告団 事務局長）

〈休憩〉

**「脱原発訴訟 弁護士が語る京都市政」**

◆**福山和人**（京都脱原発弁護団、京都法律事務所）

◆**意見交換、討論**

**2024/1/8** 月/祝 **13：30～16：30**

**ひと・まち交流館 京都　第４会議室**

**〈主催〉 大飯原発差止訴訟 原告団世話人会**

**〈参加費〉 無料**

京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町 83-1
（河原町通五条下る東側）　TEL：075-354-8711
（市バス：河原町正面）


【連絡先】京都脱原発原告団
〒604-0857　京都市中京区蒔絵屋町 280 ヤサカ烏丸御所南ビル 4F
京都第一法律事務所 気付　TEL：075-211-4411（担当：小針）



( Design by 工房もろもろ 〈moro@moro-zumi.com〉 )　（2023 年 11 月）

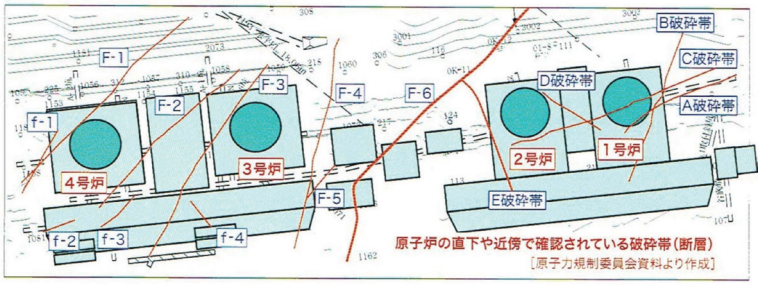
# 大飯原発差止訴訟［京都地裁］の
# 3つの争点

## 争点1 若狭湾には、将来もM7クラスの地震、基準地震動をこえる地震は来ないのでしょうか？

- ニッポンは地震国です。陸域ではどこでもM7クラスの地殻内断層地震に見舞われることを覚悟しなければなりません。若狭湾でも近い将来にM7クラスの地震が起きる可能性が十分考えられます。しかし現状では地震の直前予知はできません。若狭湾でM7クラスの地震が起こった場合、大飯原発の揺れの強さが現行の基準地震動以内に収まる保証はありません。

- 京都には福島から避難してきた人たちもたくさん住んでいます。その人たちに、若狭湾の原発群の事故で二度目の放射能汚染をさせるわけにはいきません。また、自分の子供や孫の世代に原発事故の放射能汚染の心配をさせることは決して許せません。
- 危険な原発は、今すぐにすべて廃炉にしましょう。

## 争点2 大飯原発の原子炉が置かれている地盤は、本当に堅固で硬く、地震に対して安全な岩盤なのでしょうか？




（大飯原発1、2号炉は廃炉）

- 大飯原発の敷地には15本の断層破砕帯があります（図中赤線青字）。関電が行った地質調査や地盤調査の元資料を詳しく調べたところ、断層に沿って深部にまで地層が乱れ岩盤が脆弱であることが明らかになりました。このような地盤は地震時に異常震動を引き起こします。
- 関電は規制委員会の審査会合において、調査結果の生データを判りやすい正確な形で提示することなく、堅固な岩盤であると誘導する曖昧な表現によって地盤の脆弱性を隠蔽し、自分勝手な都合のよい地盤構造モデルを捏造して審査をすり抜けました。
- 捏造された地盤構造モデルでは基準地震動は過小に評価されます、大飯原発は地震に対して安全であるとは決して言えません。

## 争点3 大飯原発で事故が起こったとき、はたして避難できるのでしょうか？放射線被ばくをしても健康被害は起きないとでも言うのでしょうか？

- 原発がいかに危険か、避難がいかに困難か、これまで、多くの原告が陳述してきました。
- これまで意見陳述をされた原告。（敬称略、2023年12月予定まで）

- 京都大学名誉教授（前原告団長）の竹本修三、聖護院門跡・門主の宮城泰年、滋賀大学元学長（環境経済学）の宮本憲一、京都府立大学元学長（都市計画）の広原盛明の各氏。
- 福島県やその近隣から避難してきた福島敦子、萩原ゆきみ、菅野千景、宇野朗子、太田歩美の皆さま。
- 京都府北部の三澤正之、阪本みさ子、齋藤信吾、栢下壽、吉田真理子、小西洋一、西川政治、石井琢悟、近江裕之、今井崇、吉田邦子、迫田薫、山本賢二、濱中博、添田光子の皆さま。
- 京都市の林森一、池田豊、松本美津男、西郷南海子、市川章人、藤井悦子、吉永剛志、原龍治の皆さま。
- 兵庫県南部地震との関係で兵庫県の高瀬光代、コロナ禍での避難について井上ひろみ（七野会）、福井県おおい町在住の村上道子の皆さま。

（ホンマ ヨウヘイ）